

「大陸の花嫁」ともてはやされて

満蒙開拓青少年義勇軍や満蒙開拓団にはたくさんの青少年がいました。入植数年経つと年齢的に家庭を持つ必要が生じます。そこでまた国策としてとられたのが「大陸の花嫁」募集でした。1939年「花嫁100万人送出計画」が決まり、大々的に宣伝し若い女性たちを使命感で満州にかりたてました。



「大陸の花嫁」という名は、「満蒙開拓青少年義勇軍」という名に優るとも劣らぬ誇らしさと勇ましさにあふれていた」といいます。「大陸花嫁」の訓練のために「女子拓務訓練所」「開拓女塾」が日本と満州各地に設けられました。

「大陸の花嫁」の募集が官民あげて大々的に行われ、多くの女性が「集団結婚式」に「出征」して行きました。(写真は『写真記録2日中戦争』ほるぷ出版より)

「満州」花嫁学校



農閑期の夏、1週間の日程で「女子拓殖訓練」が行われました。訓練終了後は、実際に大陸に勤労奉仕に派遣され、その体験談を広めることで「大陸の花嫁」への応募を煽りました。(写真は「にいがた女性史」郷土出版社より)

大陸の花嫁



昭和18年、12人の女性が白山丸で満州へ。1年後、子どもを抱えた花嫁の一人。(写真は写真記録「にいがたの女性史」郷土出版社より)

開拓団に付随して渡満した人々

青少年義勇軍の少年たちがかかるホームシックである「屯墾病」対策として、隊員に対する母性的保育が必要との考えから、現地大訓練所などに寮母(女子指導員)として219人が送り込まれました。

そのほか、開拓団ができれば学校、病院、郵便局などが必要になり、そこで働く職員や教員・医師・看護婦などが日本から送り込まれました。

また満州各地に食料増産のために58カ所「報国農場」が設置され、一定期間、満州各地に4600人の青少年の勤労奉仕隊や女子奉仕隊が送り込まれました。

開拓団の一員として畑を耕す大陸の花嫁



女子拓務訓練所 女性たちの身体検査



(上・下
写真は『写
説満州』
(太平洋戦
争研究会
編) ビジ
ネス社)